

湖水地方とナショナル・トラスト(2)

浅井 千晶

キーワード：湖水地方 The Lake District, ビアトリクス・ポター Beatrix Potter,
自然保護 Conservation

「ピーターラビット」のシリーズで世界中に知られるビアトリクス・ポター (Beatrix Potter, 1866-1943) は湖水地方とナショナル・トラストの関係を考える上で欠かせない人物である。なぜなら、ポターは *The Tale of Squirrel Nutkin* (1903) や *The Tale of Jeremy Fisher* (1906) などで湖水地方の風景を世界中の読者に印象づけただけでなく、絵本の印税で湖水地方の農場や土地を次々購入し、遺言でそれらをナショナル・トラストに寄贈したからである。本稿では、ビアトリクス・ポターにとっての湖水地方の重要性を再確認する。とりわけ後にナショナル・トラストの創設者の一人となったハードウィック・ローンズリー (Hardwicke Rawnsley, 1851-1920) と湖水地方で出会ったことがポターと自然との関わりを実り多いものにしたことを、ポターの前半生を通じて検証してみる。

1、ポターと湖水地方

ビアトリクス・ポターは1866年7月28日にロンドンで誕生した。両親の出身はイングランド北部であったが、法廷弁護士となった父ルパートがロンドンに居を定めたのだ。祖父エドモンド・ポターが木綿プリント業で財産を築き、裕福だったポター家は、夏の3か月はロンドンの喧騒を離れて避暑に行く慣わしであった。ポターが五歳になる1871年の夏から十一年間は、スコットランドのパーサチャーのダンケルドに近いダルガイズ・ハウスがポター家の夏の家だった。ロンドン育ちのポターは周囲の自然をよるこびと驚きをもって発見し、野鳥や草花のスケッチや水彩画を多く残している。少女時代の日記には、「森に不思議な妖精たちが住む」この地について愛着をこめて記している。

The woods were peopled by the mysterious good folk... I remember every stone, every tree, the scent of the heather, the music sweetest mortal ears can hear, the murmuring of the wind through the fir trees.¹

ビアトリクスと弟のバートラムにとってスコットランドの田舎はまたとないすてきな所であったが、1882年、ルパート・ポターは新しい避暑地を探さなければならなくなった。南アフリカに最高裁判所長官として赴任していたダルガイズ・ハウスの持ち主チャールズ・スチュアートがケープ植民地で亡くなり、彼の相続人が家賃を大幅に上げてきたのだ。そこでルパートは従来のスコットランドをあきらめ、イングランド北部湖水地方のウィングミア湖西岸に建つ、レイ・カースル (Wray Castle) という大きなお城風の館を借りることにした。² ビアトリクスは十六歳で、これが後々まで関わりをもつことになる湖水地方との最初の出会いであった。

1 Transcribed by Leslie Linder, *The Journal of Beatrix Potter 1881-1897*, p. 85.

2 Judy Taylor, *Beatrix Potter: Artist, Storyteller and Countrywoman*, pp.36-37.

2、ハードウィック・ローンズリーとの出会い

ナショナル・トラストの創設者の一人ハードウィック・ローンズリーはその頃、湖水地方最大の湖であるウィングミア湖畔の小さな教区レイで牧師をしていた。

ローンズリーは1851年ロンドン近郊の古い牧師館に生まれた。ローンズリー家は詩人のテニス家と親交があり、ローンズリーも詩や散文、政治小冊子など精力的に文筆活動を行うことになる。1870年、オックスフォード大学ベイリオル・カレッジに進学すると、労働の価値を説くジョン・ラスキン (John Ruskin, 1819-1900) の影響を受け、他の学生とともに道路工事に参加したりもした。³ 1874年オックスフォード大学卒業後、ロンドンの貧民地区で短期間働いたが、身体を壊して湖水地方で休養。イギリス西部のブリストルで牧師を二年務めた後、1877年12月にウィングミア湖畔の小さな教区レイの牧師となったのである。

画家のジョン・エベレット・ミレーとも親交があったルパート・ポターは写真が趣味で、教養ある客人や地方の名士と交流するのが好んだため、まもなく教区牧師であるローンズリーはポター家を訪問するようになった。ポター家を訪れるようになったローンズリーは、ビアトリクス・ポターのスケッチや水彩画に目をとめ、才能を認めた。それは、ロンドンで家庭教師につくだけで学校には通わず、孤独な少女時代を送っていたビアトリクスにおおいに自信を与えるものであった。

Hardwicke impressed all the Potter family with his kindness and erudition.Mr. Potter found Hardwicke sympathetic to his hobbies and Beatrix, aged sixteen, shy and introspective, was warmed by his praise of her artistic talent and encouragement of her growing interest in geology and archaeology.⁴

ローンズリーとビアトリクス・ポターは執筆への興味、自然やナチュラル・ヒストリーへの関心など多くの興味・関心を共有した。ローンズリーはまた、自然を守る大切さをポター家の人に説いた。ポターと出会った翌1883年、ローンズリーは湖水地方への鉄道乗り入れ反対を契機に「湖水地方保護協会」(Lake District Defense Society) を作り、精力的に活動した。ポターは、ローンズリーを通して、自然保護の意義を具体的に学んだと言える。ローンズリーはこの年に湖水地方北部ダーウェントウオーター湖畔の町ケジック近くのクロスウェイト教区に移動したが、ポター家もケジックに近いリングホルムやフォークパークで夏の休暇をしばしば過ごしたため、両家の交流は続いた。⁵

1902年、ダーウェントウオーターが開発の危機にさらされ、1895年に創設されてまもないナショナル・トラストがこの湖とその西側の土地ブランデルハウの保護活動を始めたとき、ポターはローンズリーの求めに応じてダーウェントウオーターのスケッチを何枚も描いて協力する。ローンズリーはその絵をもって地主の説得に歩いた。ナショナル・トラストが初めて行った湖水地方の環境保護のアピールは、ポターの協力を得て成功したのである。

ビアトリクス・ポターは『ピーターラビットのおはなし』の印税と伯母の遺産で、1905年、ニアソーリー村のヒルトップ農場を購入した。彼女は湖水地方に定住して農場経営に携わるようになった後、地元ハードウィック種の羊を保護するためにローンズリー牧師とともに「ハードウィック種飼育者協会」(Herdwick Sheepbreeders' Association) を推進するなど、ローンズリー牧師との交友は生涯続いた。そして、ポターは遺言で4,300エーカーもの湖水地方の農場と土地をローンズリーが創設者の一人だったナショナル・トラストに残したのであり、現在の湖水地方の景観保存に大きく貢献したのである。⁶

3 ラスキンはまた、1872年以降、湖水地方のコニストン湖畔に居を移し、後半生を湖水地方で過ごした。現在ラスキンの住居ブラントウッド邸は公開されている。

4 Battrick, Elizabeth. "Canon Rawnsley and the National Trust," p.29.

5 Hanson-Smith, Christopher. "Beatrix Potter and the National Trust," p.6.

6 Ibid., p.9.

3、『ピーターラビットのおはなし』と湖水地方

「あるところに、4ひきの小さなうさぎがいました。なまえは、フロプシーにモプシーにカトンテールにピーターといました」で始まる『ピーターラビットのおはなし』は今では世界中に知られているとって過言ではないだろう。この話は、1893年、かつての家庭教師アニー・ムーアの長男ノエルに手紙で書いて送ったのが発端だが、ポターが『ピーターラビットのおはなし』の出版を考えたときに相談したのは、ハードウィック・ローンズリーだった。既に詩集など数冊を刊行していたローンズリーは、創設もないナショナル・トラストの会合でロンドンに行く機会などを利用して出版社をめぐり、粘り強く交渉した。そしてついに1902年、1901年に私家版として出版された『ピーターラビットのおはなし』の絵をすべて彩色するという条件で、フレデリック・ウォーン社から商業出版されることになったのだ。ポターは結局、「ピーターラビットの絵本」と総称される二十数冊の小型絵本を生み出した。

今年(2006年)7月17日から21日に湖水地方アンブルサイドの St. Martin's College で、1984年以来、Beatrix Potter Society が隔年開催する国際会議の第12回が開かれた。今回のテーマは "Beatrix Potter: The Sources for Her Inspiration" であった。ポターのインスピレーションの源は当時の絵本、聖書など様々だが、大きな源はもちろん湖水地方の風景とそこに暮らす生き物である。ポターは観察力とそれを正確に描写する才能を備え、生き物や景色をよく観察して、徹底して写實的に描いた。物語の舞台として湖水地方のダーウェントウオーターやヒルトップ農場が描かれ、湖水地方に生息する生き物、リス、カエル、カモ、ハリネズミなど個性豊かな動物たちとキツネノテブクロやスイレンなど自生している植物が細部にいたるまで正確に描かれている。登場する動物たちは、もし動物が人間と同じ感情や考える力、言葉をもっていたら、そう感じ、考え、話すだろうという表情やしぐさ、動きが与えられているが、物語にリアリティを与えているのが動植物を観察して丹念に描かれた絵であるのは確かである。ピーターラビットのシリーズの小型絵本にはポターの湖水地方での体験が存分に生かされているのだ。

結びに

本稿では、湖水地方におけるビアトリクス・ポターとハードウィック・ローンズリーの出会いが実り豊かなものであり、ポターが「ピーターラビットの絵本」を通じて、世界中の人たちに湖水地方の生き物の世界を伝えたことを確認した。次回は、湖水地方に定住し農業経営者となったポターが、いかに湖水地方の伝統と景観の保存に貢献したかに焦点をあて、考察することにする。

引用／参照文献

- Batrick, Elizabeth. "Canon Rawnsley and the National Trust," *Beatrix Potter Studies*, VII (1997), 27-38.
- Denyer, Susan. *At Home with Beatrix Potter: the Creator of Peter Rabbit*. London: Frances Lincoln Limited, 2000.
- Hanson-Smith, Christopher. "Beatrix Potter and the National Trust," *Beatrix Potter Studies*, I (1985), 5-10.
- Hobbs, Anne Stevenson. *Beatrix Potter: artist & illustrator*. The exhibition catalogue at the Dulwich Picture Gallery. London: Frederick Warne, 2005.
- Linder, Leslie. transcribed from her code writings. New and revised edition. *The Journal of Beatrix Potter 1881-1897*. London: Frederick Warne, 1989.
- Murphy, Graham. *Founders of the National Trust*. London: National Trust Enterprise Ltd., 2002.
- Taylor, Judy. ed. *Beatrix Potter Letters*. London: Frederick Warne, 1989.
- *Beatrix Potter and Hilltop*. London: National Trust Enterprise Ltd., 1989.
- *Beatrix Potter: Artist, Storyteller and Countrywoman*. Revised edition. London: Frederick Warne, 1996.
- 吉田新一 『ピーターラビットの世界』 日本エディタースクール出版部、1994年。